

研究所だより

第435号
2021年11月17日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 秋の夕日に照る山もみじ
濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる 楓^{かえで}や 鶯^{つた}は
山のふもとの裾^{すそ}模様 ”

『紅葉（もみじ）』 童謡・唱歌 1911(明治44)年



～ 晩秋 ～

暦の上では「立冬」、「小雪」と季節は冬に移り変わっていきます。「立冬」とは、冬が始まる頃。木枯らしが吹き、木々の葉が落ち、山では初冠雪の便りが届く頃となります。「小雪」とは、雪が降り始める頃。まだ、積もるほど降らないことから、小雪といわれたようです。また、野山では木々がほんのり色付き始め、色鮮やかな紅葉が見頃を迎えています。紅葉狩りを愉しむのも一つの手ですね。

これから次第に冷え込みが厳しくなってくるとインフルエンザの流行も心配になります。コロナ感染症も徐々に規制が緩和されてきていますが、まだ終息となっていません。今一度「手洗い、うがい、マスク着用」など健康管理には十分に留意しながら過ごしましょう。

(月刊日本教育 7月号) から

G I G A スクール構想 一人一台端末時代の学校づくり

第3回 具現化を加速させる体験的な仕掛け

玉置 崇 教授 (岐阜聖徳学園大学教育学部)

1. 校務支援システムとの違いを踏まえる

「校務でコンピューターを使わない教員はいません」と聞いて、それを疑う方は今やいないでしょう。ところが、「授業でコンピューターを使わない教員はいません」と話すと、「そのようなことは信じられません」と言われるでしょう。

G I G A スクール構想を具現化するためには、この違いがなぜ生まれるのか、その原因を踏まえた取組をすることが大切です。

校務支援システムが導入されたときを思い出してみましょう。今は、一時でもシステムが停止すると困るという方がほとんどだと思いますが、当初はシステム活用に抵抗感を示した方が多数おられたのではありませんか。システム導入後、すぐに全教員が使い始めたわけではないと思うのです。

活用が日常的になったのは、便利さを実感できたからではないでしょうか。例えば、通知表作成で校務システムを活用すると、評価印を押さなくてもよいだけでなく、評価値は指導要録作成時にも活用することが可能です。入力したデータは関連する項目で活用され、その都度、入力（押印）する必要がないことは、どれほど業務を楽にするのかが、実感できました。

これを踏まえれば、G I G A スクール構想を具現化するには、授業で1人1台端末を活用する便利さを教師が体感することが、最も効果的な手段だといえるでしょう。

2. 授業で活用する便利さを体感する仕掛け

では、管理職としてどのようなことを仕掛けるとよいのでしょうか。その一例を示しましょう。まず教員に子ども役になってもらいます。

クラウド上に、だれもが同時入力できるホワイトボード（例 ホワイトボードに付箋紙を置く感じで作業ができる「ジャムボード」というアプリがある）を用意して、そこに一齐にアクセスしてもらいます。

わからない人は、近くの人に気軽に聞けばいいと伝えます。「同僚性を発揮しましょう」と呼びかけます。

実は、丁寧に説明しても、わからない人にはわからないのです。実際にアクセスする様子を目の当たりにした方が、早く理解できます。

教師は、わからないときにわからないと言いましょうと、いつも子どもたちに言っています。ところが自分がそうになると、なかなか声が出ないものです。きっと、わからない子どもの気持ちを実感できることでしょう。

わからなさを解決するには、素直に他人に依存すればよいことを実感することです。1人が「わからない」と発言すると、一気にあちこちで声があがり、互いに学び合う賑やかな雰囲気になるでしょう。これがいいのです。教師こそ楽しんで学び合えばよいのです。

全員がホワイトボードを開いたことを確認したら、そこに入力してもらうための発問をします。例えば、「あなたの好きな食べ物を、名前も添えて入れてください」といった単純な問題がよいでしょう。

今後、このときの仕掛けを授業で子どもたちに仕掛けてほしいからです。これなら学級の子どもたちもできると、どの教師も思うことが重要です。

先に紹介したアプリでは、付箋紙の色も選んで、文字を入力できます。ホワイトボードにあちこちから付箋紙が貼り付けられてくるのを見ているだけでも面白いと感じる人がいます。1人1台端末を使った共同作業はこういうことなのか、と初めて具体的にイメージを持つ人もいます。

「付箋紙はどこに置いてもよいのですが、だからこそ、どこに置こうか考えた人はいますか」と、投げかけるとよいでしょう。

数人の手が挙がるのは間違いありません。付箋紙に書かれた内容は必ず目にしますし、指示されなくても、同じ内容の付箋紙、あるいは似ている付箋紙の近くに自分の付箋紙を置こうとするからです。

そのあと、「さて、子どもたちも付箋紙を置くときに、このように考えるでしょうか」と投げかけるのも、大切な仕掛けです。いつも子どものことを想定しておくことが、教室での実際の取組に生きるからです。

3. 授業の一場面で端末活用をするよさを実感

この仕掛けのよさに気づいていただけたでしょうか。これなら授業のあの場面で使えと、発想が浮かぶ仕掛けだと思っからです。

授業では、子どもたち全員の考えを聞くことはなかなかできません。仮に紙に書いて黒板に貼らせても、それを生かすことはできません。

ところが、この仕掛けは全員が自分の考えを示すことができます。さらに付箋紙を移動することで分

類
こ
実



もできます。内容を確認し合うことも容易です。

「これなら授業のあの場面で端末が簡単に使える」と思うことができる例を体験することが、G I G A スクール構想の現化を加速させると考えています。



～第2回教育研究所運営審議会～

11月4日(木)に第2回教育研究所運営審議会を開催しました。
本年度前期(4月～10月)の事業実績(下記の9項目)について報告、意見交換を行いました。

(1)教職員の資質・指導力の向上の取組

- ①転入教職員研修会の開催(年2回:①5/18 ②6/10)
(本市の教育行政方針、人権教育の取組等について)
- ②校内研修や教育活動への支援
研究協力校を中心に校内研修や授業の支援

(2)授業力の向上の取組

【補助事業】

- ①教育研究推進活動による事業:教育研究集会(市教研9部会)の運営
(教研活動:組織教研5/12、一日教研8/4、半日教研11/10、総括教研)
- ②教育研究活動による事業:研究協力校(2校:三崎小・清水中)

【連携事業】

- ③学力向上検討委員会(年2回:①9/24 ②2月上旬)

(3)豊かな心と健やかな体の育成の取組

- ①実態把握のための定期的な学校訪問
(各校の児童生徒の状況把握、情報交換等)
- ②特別教育支援コーディネーター(あすなろネットワーク)連絡協議会の開催
(年4回:①7/12 ②8/23 ③12/21 ④1月中旬)
- ③適応指導教室「あすなろ教室」との連携
(教室の現状等について)
- ④SSW・SC(アトリーチ型)との連携

(4)特別支援教育支援

(5)情報教育に関する事業

(各校のHP更新等の支援、プログラミング研修支援)

(6)資料収集に関する事業

(7)刊行物

- ①『研究所要覧』の発行
- ②『研究所だより』の発行(4月No.428～10月No.434)

(8)教育研究所運営審議会(年3回:①6/1 ②11/4 ③3月上旬)

(9)高知県教育研究所連絡協議会(年2回)

- ・第1回春季教育研究所連絡協議会(5/28 オンライン会議)
- ・第2回秋季教育研究所連絡協議会(11/29 香美市大会・大宮小)



特に(2)授業力の向上の取組の中の【補助事業】①教研活動、②研究協力校に関する
こと、(3)豊かな心と健やかな体の育成の取組の中の①②③④について意見交換や情報
共有、(5)情報教育に関する事業ではICT環境の整備、専門性を有した教職員の配置な
ど多くの意見をいただきました。

後期の教育研究所の運営・研究推進に生かしていきたいと思ひます。

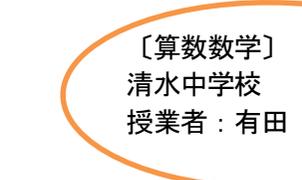
<第71次土佐清水市教育研究集会・半日教研特集①>

11月10日(水)に各部会公開授業を主体とした半日教研が開催されました。それぞれの部会で研究
授業や講師招聘しての研修、日々の実践交流等ができたものと思ひます。

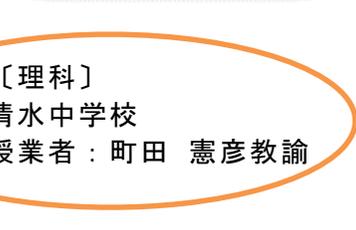
下記に公開授業・研究協議等の様子を紹介しします。



〔社会科〕
清水中学校
授業者:西田 知晃教諭



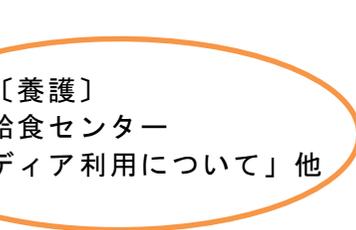
〔算数数学〕
清水中学校
授業者:有田 浩喜教諭



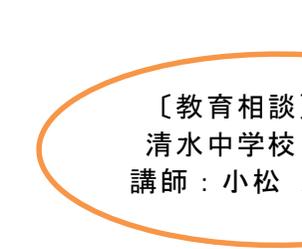
〔理科〕
清水中学校
授業者:町田 憲彦教諭



〔情報教育〕
三崎小学校
授業者:増山 賢太教諭



〔養護〕
給食センター
「メディア利用について」他



〔教育相談〕
清水中学校
講師:小松 宏暢さん(SC)